

## 子供の体験活動推進に関する実務者会議（第4回）主なご意見 （メールでのご意見）

### 体験活動の定義について

- ・H25 答申にある体験活動の定義の記載に「特に社会教育や学校教育の場で提供される場合は、教育的な目的・効果を考慮して体験活動を進めている。本報告においては、主として上記答申の定義の体験活動を念頭において提言している。」とあることにかんがみ、「教育的な目的効果を考慮して」とを記載してはどうか。これは体験活動の質を考える場合の視点になると思われる。

### 体験活動の効果・意義について

- ・「お手伝い」が具体例に挙げられているが、一般的に、家庭や学内のお手伝いはいわゆる「体験」には含まれないと思うので、その他の場におけるお手伝いである旨を明記した方が良いと思われる。
- ・また、「また、社会体験活動の」以下の文中に「キャリア教育」のキーワードを入れていただけないか。学習指導要領でも推進が明示されているところかと思う。

### 体験活動の現状について

- ・自然活動についての記載のみとなっているため、社会体験についても記載を追加頂きたいと思う。

### 学校教育に関する記載について

- ・第1回の会議資料で提示された中に、学校という場での活動が示されているので、学校教育に係る内容も入れられたらと思われる。  
例えば、1.「(2) 体験活動の現状」で、例えば武蔵野市教委や北九州市教委の事例など積極的に取り組んでいる地域がある一方、限られた体験活動で終始している学校など、地域や自治体により違いがあることなど。

### 地域等における体験活動に関する記載について

- ・2.「(1) 体験活動の『量』の確保」で、地域等における体験活動の具体的な例として、公民館、博物館、図書館、総合型地域スポーツクラブ等といった例を記載してもよいのではないと思われる。

## 体験活動の「質」に関する記載について

- ・「子どもの成長を支える 20 の体験」のパンフレットから、「体験する」ということは、何かしらの活動（自然体験、遊び、学習等）や行為（人助けをする、けんかする等）を“すること”だけを意味するのではなく、その活動や行為を通じて得られる感情（うれしい、感動、悲しい、悔しい等）や気づき（分かる、発見する等）、学び（理解する、できるようになる等）など、いわゆる体験の質に関わる部分も含まれています。また、“体験する”ということには、自らが動いたり働きかけたりする能動的な体験だけではなく、他者からの働きかけ（褒められる、叱られる等）など受動的な体験も含まれてきます。」を文中か、註として入れていただくと、なぜ、自発性、自主性、選択制を重視しながら、子供たちの達成感や感動、学びや仲間たちとの連帯感等を感じられるようなプログラムとなるよう配慮することが重要であるのかが伝わりやすいかと思われる。

## ポータルサイトについて

- ・ポータルサイトの運営に当たってはプッシュ型の情報提供も方策として入れて頂いた方が有効かと思われる。

## 体験活動の指導者について

- ・「指導者」について、何を目的に誰に対して何を指導する方が、定義を記載した方がよいのではないかと思われる。
- ・指導者の研修について、自然体験の記載があるが、社会体験についてはいかがか。また、NEAL の拡充による研修制度とあるが、社会体験についてはいかがか。
- ・指導者の研修について、「また、体験活動の実施において、安全・安心な環境づくりは指導者の重要な責務の一つになる。そのため、体験活動における安全管理やリスクマネジメントに関する研修の充実を図ることも大切である。」と付け加えてはいかがかと思われる。

## コーディネータについて

- ・地域学校協働本部という拠点が無い場合、地域の連携・協働の核となる人材として、社会教育士に触れてもよいのではないかと思われる。
- ・地域学校協働本部と地域学校協働活動推進員へは期待があるが、リアルな体験活動の推進には、現状、数が不足し、また推進員へは他にも求められる役割が多くある中、なかなか十分とは言えないかと思われる。教職経験者や企業経験者、青少年教育団体関係者、社会教育関係者、青少年教育施設職員等他コーディネーターを担う方々も記載いただいた方がよいと思われる。

## 体験活動の「利用者」の参加インセンティブについて

- ・日常では体験できない活動を提供することが子どもや保護者にとってのインセンティブになるというだけではインセンティブとして少し弱いように感じる。

そのため、例えば、現在、国立青少年教育振興機構・ボーイスカウト日本連盟・ガールスカウト日本連盟で行っている「そとチャレラリー」や、国立青少年教育振興機構の全国高校生体験活動顕彰制度「地域探究プログラム」、東京学芸大学の「青少年体験活動奨励制度」(現・青少年体験活動アワード)などを体験活動に参加するインセンティブの例として挙げてもよいのではないかとと思われる。

#### **体験活動の「利用者」を評価する仕組みについて**

- ・ 企業等が提供する体験活動の利用者の視点で書かれていると思われるが、施設や団体は提供する側としてのイメージのほうが強いと思うので、施設や団体が利用者サイドにあるということが分かる説明を付け加えた方がよいと思われる。

#### **体験活動の普及啓発について**

- ・ 普及啓発活動の一つに「体験の風をおこそう推進月間」のようなキャンペーンも入れてはいかがかと思われる。また、顕彰制度に関する記載もあってもよいのではないかとと思われる。